

地域の理想の将来像を描いた丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」。たんばの「自立」「交流」「元気」「絆」「安全安心」の実現をめざして、5つのグループが2年間取り組んだ活動を報告します。

発行：丹波地域ビジョン委員会 〒669-3309丹波市柏原町柏原688 Tel.0795-72-0500(内217) FAX0795-72-3077



元気なたんば おかの草刈り応援隊グループ



2年目は灰屋ウオークの出発点にあった灰屋の修復に着手。現在は肥料作りに使われている灰屋も少なく、再建方法も手探り状態でしたが、市内外の方々や大学生のご協力を得て、土練りから始めました。素人ながら、水分加減や刻み藁の入れ具合をみながらの土作り。型枠に入れて作った土ブロックの積み方も、残された灰屋の壁土の様子をみながらの作業となりました。



試行錯誤を重ね、完成の日を迎えた時は、感慨無量でした。いよいよ火入れ作業。

今も灰屋での肥料づくりをされている方に教わりながら、豆殻やもみ殻、竹、刈り草、土を何層にも重ねて点火。順調に白煙が上がり、ほっとしました。「丹波篠山の黒大豆栽培」の日本農業遺産認定に際して、灰屋による焼土肥料の活用は伝統的な資源循環型農法として評価されています。

この取り組みがよい形につながっていくことを期待します。



農家の困り事の一つである「草刈り」を支援しようと、地域で「おかの草刈り応援隊」を発足しました。ビジョン委員会の活動では、刈り草の有効利用を探る中で、刈り草や土をいぶして焼土肥料を作る小屋「灰屋（はんや・はいや）」に着目しました。

1年目は講演会（灰屋の焼土肥料について）と「灰屋ウオーク」を開催し、多くの方に興味を持っていただきました。



ビジョン委員会が新体制へ変わります

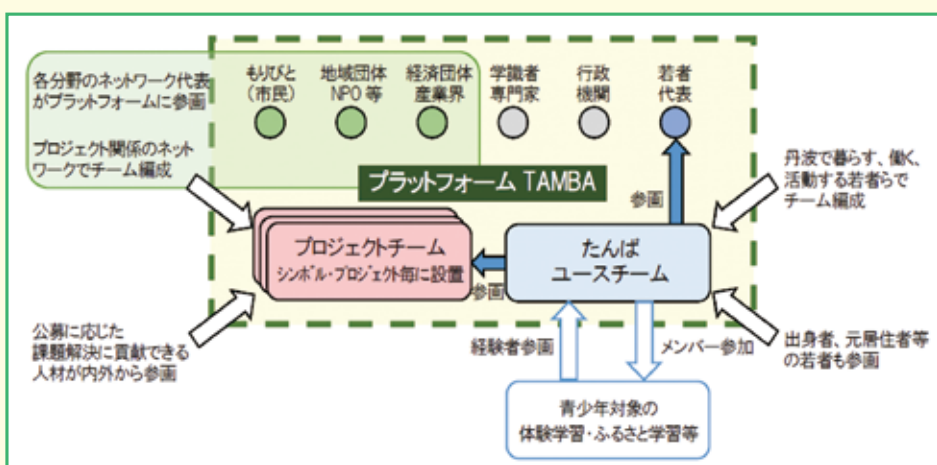
丹波地域ビジョン委員会では、平成13（2001）年度の設立から20年間にわたって丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」が掲げる将来像の実現を目指し、様々な活動に取り組んできました。

この度、新しいビジョンとなる「丹波2050地域ビジョン」が令和4年3月に策定されるのに伴い、これまでのビジョン委員会としての活動体制は一区切りを迎えますが、その活動は、新しいビジョンのもとで、地域の中でこれからもつながっていきます。

新しいビジョンでは、新たな推進組織を結成し、様々な形でビジョンの実現を目指していきます。

「プロジェクトチーム」では、新しいビジョンが掲げるシンボル・プロジェクト毎に、その推進を進め、「たんばユースチーム」では、次代を担う若者が、将来に向けたアイデアの提供や情報発信、ネットワークの形成など、様々な役割を担います。

これらの推進組織は、各分野で活躍する地域内外の組織や人材をゆるやかにつなぐ「プラットフォームTAMBA」のもとで、様々な担い手と共に、新たな価値の創造に取り組んでいきます。





獣害対策の一環として、丹波篠山市「みたけの里づくり協議会」が行っている放置柿を一般市民にもぎ取ってもらうイベント「さる×はた合戦」に参加し、約30kgの富有柿をもらい受け、実用化に向けた柿加工品の試作を行いました。

※作業工程は、一部省略して記載しています。

①柿プリン

果皮・ゼラチン・風味(ショウガ、シナモン)の有無について検討しました。結果、果皮を取り除きゼラチンを入れ水飴で少し甘くし、ショウガやシナモンで風味付けすると美味しくなりました。

②柿ジャム

風味付けのシナモンとショウガの量を変え検討しました。結果、シナモン0.3gとショウガ1.5gが一番美味しく、パンと一緒に食べると甘みも良くシナモンやショウガの風味もありました。

③柿酢

1週間柿を熟し、傷んだ部分やヘタを取り除き熱湯消毒後、1週間・1ヶ月・3ヶ月後の変化を見ました。1週目は水分が多くなった程度でしたが、3ヶ月後には甘酸っぱい香りがしましたが酢とは思えませんでした。濾過や絞りなどの行程が必要だと思いました。

④柿羊羹

種を取り除き、寒天粉と小豆餡を混ぜ加熱し、柚子の皮をすりおろした物の有無で比較しました。結果は、柚子を使った方が香りもあり小豆餡の味がして美味しくなりました。

しかし柚子の風味が強クザラザラ感が残る配合もあり、今後の検討課題となりました。

<まとめ>

柿加工品に実用可能なのは、保存の観点からジャム・羊羹が適していると思います。今後、さらに研究を続け実用化を目指したいと思っています。



4種類の試作品が完成しました!

私達は、移住希望者と地域の方々を“つなごう”が目的のグループです。移住希望者の方々に、気軽に安心して相談できて、移住を考えてもらえる冊子の作成に取り組みました。

今年、ムラとマチとの奥丹波、丹波篠山暮らしの案内所『クラッソ』、ハートピア（滞在型市民農園）、福住地区まちづくり協議会の方々に、様々な視野からのお話を伺いました。

『クラッソ』では、R2年度の移住相談件数、移住者数ともに、開設以来過去最高の数になったそうです。



ムラとマチの奥丹波（丹波市市島町北奥）では、都会の人と田舎の人が共同で農作業をされています



◀クラッソで、移住に関するお話を伺いました

◀冊子の内容をメンバーで打ち合わせ中



取材を通して、お伝えしたいことは3つです。

1. 気軽に相談でき、情報豊富、親身になってもらえると体験したので、移住相談窓口に行ってほしいことです。
2. 暮らしは都市部と違うことを踏まえて、体験をお勧めします。
3. 移住者が移住者を呼んでいる構図ができています。現在の移住者の方々の思いや存在を大切にすること、地域の良いところは活かしながら、変えていくところは変えていくことも大事だと思いました。

冊子が移住者の一助になれば、嬉しく思います。2年間、関わってくださった皆様方、有難うございました。

※冊子は、県民局や市役所、道の駅等で配架予定です。

私たち WaKai グループは、丹波地域の 30 年後のあったかい未来を目指し、活動しました。

今年度の当初の目標は、マルシェを通して地域の方たちとつながり交流していく、というものでした。しかし、このご時世の中でマルシェを決行するのが難しく、子育てオンライン講演会という形で活動させていただきました。

ゲームによる居場所、つながりづくりにも取り組んでいます。今年度は高校生と連携し、ゲームを通して地域交流・活性化を目指す授業活動に協力しました。若者交流としても、eゲーム会などをひきこもり当事者団体との連携で開催し、企業、団体、事業所等のメンバーによるゲームでつながるグループ形成ができました。

内部障がい者とeゲームとスポーツをつなげる取り組みも始め、体力的に厳しくてもスポーツの楽しさ、生きがいづくりとして広めていければと活動しました。

講演会は終了していますが、アーカイブ動画をYouTubeで視聴できます！



ゲームを通じた交流のようす

地元密着型の塾講師の方（やすふく先生）に講演会をお願いし、小さいお子さんを持つ親御さんから受験を目前にされているお子さんを持つ親御さんまで、幅広い方に聞いていただけて、尚且つとても役立つ内容でした。

こちらの講演内容や、やすふく先生にご興味のある方は、YouTubeで『やすふく先生』とご検索下さい。



私たち花あかりグループは、化学添加物をとりすぎない社会に注目し、子どもの頃から体に優しく、また安価で作りやすいおやつを知って食べる機会の紹介をするためのリーフレットの制作を目的に、2年間活動してきました。



昔食べていたもので、小麦粉と水で家庭にありそうな材料で選んでみました。また、今は他の材料(砂糖、クリーム)もそろっているので、アレンジしながら楽しく作ってもらえたらと思います。



活動紹介リーフレット

近年、幼少期から肥満や糖尿予備軍が増えているという報告も増えてきています。一部の方は頑張っていますが、現代の食生活や生活環境の中で、化学無添加や自然添加物は大変だと思います。これを機に、少しでも化学添加物のおやつより手作りおやつに興味をもってもらい、体の負担を軽減していただけたら幸いです。



「生かそう!丹波の食」グループの協賛で、マッシュマロンを使ったレシピ研究会も実施。主婦の知恵で6品完成!!

丹波2050地域ビジョン(令和4年3月策定)では、 2050年の丹波地域の望ましい地域社会の姿を描いています

2050 たんばの将来像
— 基本理念 —

☆人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチの創造・発信
— 「人」を創り、「森」を(守り)活かし、新たな「価値」共創に挑む —

空間像～生活空間の再編・創造～

- ◆「森」の保全と活用—守り、活かす—
- ◆集落、まちの創生—居心地の良い「場」の創出—

社会経済像～新しい経済・雇用のしくみ創出～

- ◆新しい産業、事業が生まれ続ける価値創発の風土づくり
- ◆柔軟な働き方が可能な社会の実現

人間像～新たな人材、つながり、コミュニティの出現～

- ◆創造的人材の育成・活用と地域文化力の向上
- ◆人と人とのつながり拡大と新たなコミュニティ出現



空飛ぶクルマ

市内ショッピングセンターから自宅まで空飛ぶクルマで帰宅

2030年

ドローンによる食材・日用雑貨の自動宅配サービスが普及

2033年

空飛ぶ自動車が都市部でも人を運べるようになる



人型ロボット

家事をしながら子どもに勉強を教えるロボットが実現。その横でお母さんは陶芸に没頭

2031年

当人の代わりに買い物をしたり他の人と会ったりすることを実現する、等身大のパーソナルロボットが開発され普及する



パワースーツ

森では、パワースーツを着た100歳の男性が木材を搬出

2030年

高齢者や軽度障害者の運動機能を支援するロボット機器が導入される

<展開方向とシンボル・プロジェクト>

空間像

森・川・里の自然再生・活用⇒アクティブ・フォレスト・プロジェクト<森林整備や希少生物の保護、もりびとの育成を進めます>
集落保全の仕組み構築—未来へとつなぐ集落資産⇒持続可能なコミュニティ・プロジェクト<モデル地区で集落、農地、里山の空間・ストック管理と集落運営の仕組み刷新を進めます>
次世代都市空間の創造—懐かしくも新しい、快適なまち⇒まちの拠点創造プロジェクト<中心市街地において新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能整備を官民共同で推進します>

社会経済像

農の持続化・効率化とフードバリューチェーンの構築⇒たんばスマート農林業特区プロジェクト<域内へのスマート農林業の普及拡大をめざします>、たんばフードバレー・プロジェクト<ブランド農産物の高付加価値化や新たな食加工品の開発・販売を進めます>
ツーリズムの新展開—多様化、地元化、仮想化⇒食文化ツーリズム・プロジェクト<コト体験プログラムの充実や「たんばオーベルジュ」として一体的なプロモーション、食にまつわるストーリーの発掘、発信を実施します>、たんば恐竜(DMO)構想推進プロジェクト<篠山層群を恐竜学習・アミューズメントゾーンとします>
シリ丹バレー構想の推進—エコシステム創出、DX化推進—&一起業・事業承継支援⇒シリ丹バレー構想プロジェクト【エコシステム創出プログラム】<地域産業のDX化を推進します>、【起業支援プログラム】<起業志望者への支援、ネットワークの形成、交流・連携の促進、起業スペースの発掘に取り組みます>

人間像

創造都市・創造農村の形成—文化の発信力強化—⇒集落文化発掘・体験プロジェクト<集落文化の継承・発展、理解を深めるための取組を行います>
地域子ども・子育て応援プログラムの展開⇒たんばユース躍動プロジェクト<「丹波縄文の森塾(アドバンスドコース)」を創設し、中高生を対象に自然体験を通じ、ふるさと風土への理解を深めるプログラムを開発します>
関係人口の拡大+移住・環流の促進⇒たんばスタイル(たんば暮らし)・プロジェクト<「ジョブ型移住」を進め、移住情報発信強化とマッチングを進めます>
次世代コミュニティの形成⇒スマート・コミュニティ・プロジェクト<スマート技術の実証実験を行い、技術導入の可能性や効果を探ります>

たんばビジョン通信第33号(令和3年2月発行)に寄せられたご意見の一部をご紹介します!

- ・柿・栗の活用はよく考えられています。後川寒茶、味間茶などもブランド性があり、まだまだ可能性があると思います。
- ・つながることは基本です。家、地域、市内、市外へと輪を広げていくつながりは大切で、必要なことだと感じました。
- ・何事も積極的な人たちで、頼もしく嬉しく思いました。敬意を表する次第です。
- ・「草刈り」焼土肥料についていろいろ学びたい! みんなで丹波の森を守ろう。
- ・意外と簡単に、身近にある物で手作りおやつが出来ることが気が付かされました。今後も色々な情報を楽しみにしています。

委員長メッセージ

第10期ビジョン委員会は、新型コロナ蔓延のため、予定より2か月遅れの—昨年7月—ようやく開会式を挙行し、各グループが計画を立てて活動を始めることとなりました。

この2年間は三密を避けるため人が集まることさえままならない中、各グループが地域のために何が出来るかを考えて活動を続け、終わってみれば、5グループがそれぞれに大きな成果を収めたことをこの冊子で報告できることを誇りに思っている次第です。

第10期丹波地域ビジョン委員会 委員長 岸 孝明

編集後記

—昨年からの新型コロナ感染拡大のため様々な制限にも関わらず、たんばビジョン通信第34号を発行できたことに安心しています。これもビジョン委員と応援くださった皆様のお陰と感謝しています。新年度からは、新たな構想が始まる様です。この活動が丹波地域の発展の足がかりとなり、この様な広報誌によって広く告知され、親しみ深い情報になることを願っています。

ビジョン通信の作成に携わっていただきました各委員、丹波県民局の皆様にお礼を申し上げます。

第10期丹波地域ビジョン委員会 広報委員長 加藤 晴之

丹波地域ビジョン委員会事務局

兵庫県丹波県民局県民交流室総務防災課
〒669-3309 丹波市柏原町柏原688
TEL:0795-72-0500(内線217) FAX:0795-72-3077
E-mail:tambakem@pref.hyogo.lg.jp

丹波地域ビジョンについては、

丹波県民局ホームページ、Facebookをご覧ください。

丹波地域ビジョン委員会

検索

ご意見・ご感想を募集しています!

本紙のご感想を、FAX、メール、はがきにて、左記の事務局までお送りください。お待ちしております。